

大豆・グリーンな栽培体系ごよみ

○ 重点推進事項

[基本技術]

- (1) 排水対策の徹底
麦跡溝の利用、額縁排水溝、補助暗渠の施工
- (2) 土壌改良資材の施用による pH の適正化
- (3) 麦稈の鋤き込みによる土づくり
- (4) 耕耘畝立て同時播種による苗立ち向上
- (5) 播種時の病害虫防除
- (6) 開花期以降、子実肥大期までの畝間かん水による登熟向上

○ 圃場準備

麦跡溝を活用する。
麦稈は集積している部分を散らしておく。

○ 土壌改良資材の標準的施用量

土壌改良資材	施用量(kg/10a)
石灰質資材(マグエース等)	100
BMようりん	40

○ 施肥

区分	肥料名	施用量(kg/10a)
基肥	鶏ふん	100

○ 種子の準備

播種量5~6kg/10a
毎年種子更新をする。



改良ロータリによる播種

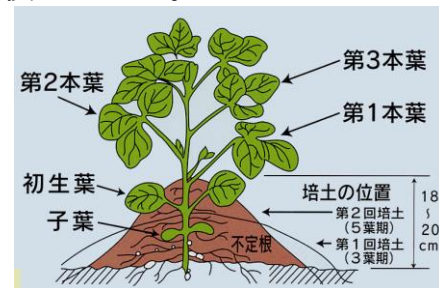
○ 除草剤散布

播種後速やかに播種後除草剤を散布する。
播種後除草剤は、散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を延期する。
碎土率が低いと(土塊が荒いと)除草効果は低くなる。
その他は防除指針を参照のこと。

○ 中耕・培土

区分	時期	高さ
第1回	3葉期	子葉が隠れるまで
第2回	5葉期	第1本葉節まで

培土により不定根が発生するピークは、
播種後25~35日。



○ 畝間かん水

梅雨明け後高温乾燥が1週間以上続き、畝の底面が白く乾いてきたら実施する。実施期間は開花期~子実肥大期。排水不良圃場では逆効果となるため実施しない。

○ 防除体系

防除時期	播種前(塗抹処理)	7月下旬~8月上旬	8月中旬	8月下旬	9月中旬
対象病害虫	紫斑病 茎疫病 フタジヒメハムシ	ウコンメイガ	紫斑病 シロイモシマダラメイガ ダイズサヤタマハエ	紫斑病 フタジヒメハムシ	カメシ類 ハスモンヨウ

○ 大豆を食害する主な害虫



根粒を食害するフタジヒメハムシ幼虫



フタジヒメハムシ成虫と被害粒



フタジヒメハムシ成虫に食害された若莢



ハスモンヨウ若令幼虫



イチモンジカメムシ



ウコンメイガ幼虫

○ コンバイン収穫の注意点

- ・ 収穫適期
葉が完全に落葉して、茶色く枯れ上がり、大豆を振るとカラカラとなるようになる時期。
子実水分 22%
- ・ 刈取時間帯
晴天日で朝露がとれてからの11時~16時
前日に雨が降ったときはあわてず、十分乾いたことを確認して刈取る。
- ・ 雑草・青立ち株の除去
汚損粒の発生につながるの
で、刈取前に必ず除去する。

主茎長

子実の重さ

